

技、其の一 早めの秋耕を実施しましょう！

今年も稲刈りが例年より早く、気温も高かったため、この時期としては「ひこばえ」がかなり大きくなっています。ひこばえ（有機物）を春先に土中にすき込むとワキが激しくなることが懸念されます。田ワキを軽減するには、**稲わらや有機物の腐熟促進が重要**です。**実施時期が早く、気温が高いほど腐熟・分解が進みます**ので、早めの秋耕を実施しましょう！（分解には平均気温 10℃以上が必要です。）

- 秋の浅耕（5 cm程度）…浅い耕起で十分ですので稲わらを土壌と混和し、**土壌微生物の働きを高め**、腐熟・分解を促進しましょう。
- 稲わら腐熟促進資材（秋散布）…田ワキの抑制に効果的です。

資材名	アグリ革命	ワラ分解キング	石灰窒素
使用量 (税込参考価格)	2kg／10 a (@3,014 円/2 kg)	10kg／10 a (@2,541円/10kg)	10kg／10 a (@5,643円/20kg)
使用時期	・原則、秋施用 ・春施用の場合は田植え1カ月前までに散布	・原則、秋施用 ・春施用の場合は代かき45日前までに散布後、速やかにすき込む	・秋施用のみ ・散布は10月下旬まで ・稲わらの分解 10 kg/10a
備考	・散布のみでもよいが、稲わらをすき込むとより効果的	・低温時でも稲わら分解に効果発揮	・つや姫圃場に施用する場合は、地力が高い圃場等には控える

※降雨後など、稲わらが湿った状態に散布するとより効果的です。
※特別栽培米に使用する場合是最寄りの営農課に事前にご確認ください。

技、其の二 積極的な土づくりを実施！

土づくりを基本とした米づくりが大切です。特に「つや姫」は高級ブランド米として品質・食味の安定は必須です。積極的に施用しましょう。
○土づくり資材…pH 矯正とケイ酸の補充。

資材名	農力アップ	てんろ石灰	とれ太郎	混合りん肥新3号
使用量 (税込参考価格)	60kg／10 a (@1,793円/20kg)	100kg／10 a (@979円/20kg)	60kg／10 a (@3,124円/20kg)	100kg／10 a (@1,463円/20kg)
使用時期	・原則、秋施用（稲刈り後、 早めに施用することで腐熟促進に繋がります ） ・春施用の場合は耕起前までに散布			
備考	・ケイ酸(20%)、苦土、微量元素を配合した新総合土づくり肥料	・ケイ酸(14%程度)や微量元素を含み、主にpH矯正を目的とし、持続性が高い	・リン酸、苦土、ケイ酸(30%)、石灰を含んだ総合的な土づくり肥料	・リン酸、苦土、ケイ酸(28%)を含んだ土づくり肥料

・ケイ酸以外の成分の効果（pH 矯正、稲わら腐熟促進など）や、作業効率から秋施用がベスト！
(裏面に続く)

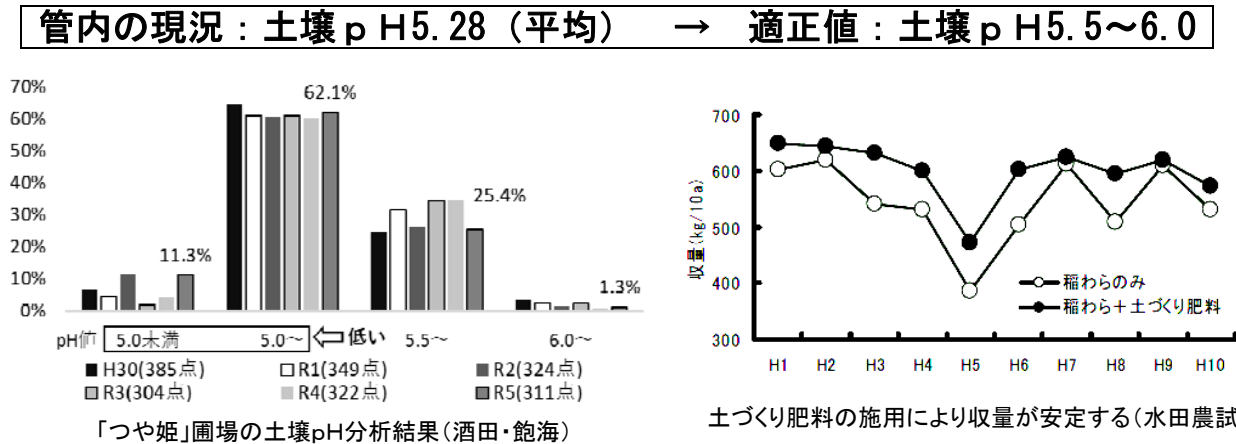
気象変動に備え今から対策！ 早めの秋耕と積極的な土づくりを！！

今年はお穂後、高温で経過したため刈取りは例年より一週間程度早く始まりましたが、刈取期間中の降雨もあり、9月末で6割程度にとどまっています。

お穂後、高温の日が続き一部では充実度不足や着色粒による落等が散見されますが、一等米比率は93%（10月3日現在）となっています。収量は平年より少なく、くず米も少ないと思われ、7月25日の大雨による品質・収量への影響を現在調査中です。

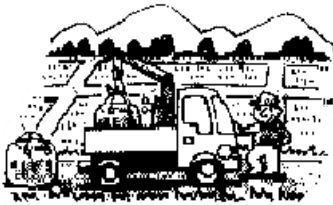
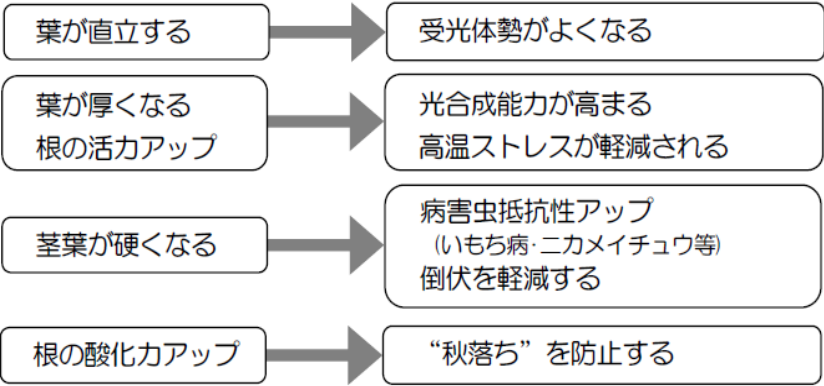
収穫後は、極端な高温などの気象変動の影響を最小限に抑えるため、また、「品質」・「食味」・「収量」のすべて揃った米の生産を目標に秋耕・土づくりを継続的に実施しましょう。

近年、多くのほ場で土壌の酸性化が進んでいることから、**土壌 pH の適正化**が急務となります。酸性化した土壌の改善（地力の回復・向上）を図るため、土壌 pH の年間0.1以上アップを目標に土壌のメンテナンスを実施しましょう。
※当JAでは「土づくり支援事業」を展開中です。積極的にご活用ください。



- **pHは土づくりをしないと低下します！**
pHが低下すると ⇒リン酸の肥料効率が低下
⇒稲わらを腐熟させる微生物の働きが鈍くなる

効果的なケイ酸施用【基本施用《収穫後(秋)または融雪後～基肥施用時(春)》】
ケイ酸成分で 30kg/10a を目標に「少しずつでも」「隔年でも」施用することが大切！
《ケイ酸の効果》
水稻は、窒素の10倍ものケイ酸を吸収するケイ酸要求量がきわめて高い植物です。ケイ酸の施用により、次のような効果が得られ、気象変動時にはより効果が高まります。



技、其の三 大豆の刈取り適期を逃さない！

成熟期後 20 日を過ぎると、しわ粒が発生しやすくなり、急激に品質が低下します。
高品質な大豆を収穫できるよう適期刈取りを徹底しましょう。

大豆収穫の目安（コンバイン収穫）

品 種	成熟期	刈取り適期
エンレイ	10/10頃	10/17～30
里のほほえみ	10/17頃	10/24～11/6



★ コンバイン収穫のポイント

- ・コンバイン収穫の適期は子実水分が 18%以下で、おおよそ成熟期後 7 日以降です。
雑草や青立株は汚損粒発生の原因となるので、刈取り前に必ず抜き取りましょう！！
- ・刈取り時は土による汚損が発生しないよう刈高に注意しましょう。
- ・収穫した大豆については、施設への搬入（出荷）までの期間、変質等に十分注意し、一時保管をお願い致します。

【農業に関する野焼き行為への注意・配慮のお願い！】
例年、春と秋に、野焼きの煙や臭いによる苦情が多く寄せられます。野焼きは原則禁止されていますが、農業を営むためにやむを得ず行われるもみ殻の焼却（燐炭作り）等は例外として認められています。その際は事前に近くの消防署へ連絡し、火災に留意するとともに、場所や時間帯、煙の量、風の向き・強さ等に注意のうえ、近隣住人の迷惑にならないよう十分配慮し、適切な対応をお願いします。ただし、住宅の密集地・隣接地の場合は、行政指導の対象となります。

柿の収穫が始まります！

生育状況:生育は概ね順調に進んでおり、果実肥大は大玉傾向で推移しています。
日中と朝晩の温度差があるため、着色が進んでいる園地も見受けられます。
カメムシ類が多く発生しているので、不安な方は下記の薬剤を使用して防除をお願いします。



アルバリン顆粒水溶剤(2000 倍 収穫前日まで 3 回以内)
モスピラン顆粒水溶剤(2000 倍 収穫前日まで 3 回以内)

※農薬を使用する際はラベルをよく読み、使用基準を厳守してください。

気象対応:各地で台風・ゲリラ豪雨等、異常気象が発生しています。
天気予報に十分注意しましょう。
また、雹害対策の為の防雹ネットを早めに設置しましょう。



収穫作業:出荷基準に基づき収穫作業を行いましょう。
高所作業等は安全に留意し、無理な体勢での収穫や果実の過積載での運搬は事故の要因となるので行わないでください。
脱渋中の汚損果防止の為、果実の取り扱いには十分注意しましょう。
(降雨時に収穫した場合は、果実に付着した水分（結露）が汚損果の原因となります。十分乾燥させてから出荷しましょう)



施肥管理:施肥は、10月上旬までに樹勢、土壌条件に応じて実施しましょう
通常の施肥の目安は、3 年枝先端の新梢が、「平核無」で 20 cm～35 cm、「刀根早生」で 30 cm～40 cm の場合、窒素成分で 12kg/10a です。

その他:獣害に遭わないように、夜遅くまでの作業や、単独作業は避けてください。